

平成 27 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2015

Date: 2015.3.25

言語社会専攻長  
日本語・日本文化専攻長 殿  
To Dean of Studies in Language and Society  
To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア II 講座・准教授
氏名 Name	原 真由子
専門分野 Academic Field	社会言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	バリ語とインドネシア語のコード混在コーパス構築と社会言語学的動態の記述
<p>本研究は、バリ言語社会の「多数派」であるバリ語平地方言話者によるバリ語とインドネシア語のコード混在についてすでに私が行った記述・分析を根幹として「少数派」、つまり近年増加しているインドネシア語をより多用する若年層のバリ語平地方言話者とインドネシア語と平地方言の干渉を受けつつあるマイナー方言のバリ語山地方言話者にも調査対象を広げ、バリ社会の会話コーパス構築を主な目的としている。</p> <p>今年度は、現地調査を平成 27 年 9 月に約 2 週間実施した。山地方言使用地域であるバリ州ブレレン県プダワ村において、前年度に引き続き山地方言の会話および語彙を収集・記録した。また、日常的な会話の他に、現地の宗教儀礼、通過儀礼、村・集落の会議（慣習村、行政村）などさまざまな言語使用領域における口上ややりとりも観察し、収集した。さらに、現地の大学・研究機関（ウダヤナ大学、ワルマデワ大学、国立言語研究所デンパサール支所など）の研究者と、インドネシア語、バリ語、その他地方語などにかかわる言語学的・社会言語学的な事柄について議論し、意見交換をした。</p> <p>平成 27 年度 11 月開催の日本インドネシア学会で、インドネシア語を日常的に主に用いるバリ語（平地方言）とインドネシア語の二言語話者がおこなう会話におけるコード混在に関する分析の一部を発表した。</p> <p>また、インドネシア語教育に関わる共同研究者と研究会を 4 回開催し、この数年行っているインドネシア語教育用文法の記述を進めた。</p>	